

指揮者：湯浅卓雄

現在、最も国際的な活躍が目覚ましい日本人指揮者の一人である湯浅卓雄は、大阪に生まれ、高校卒業と同時に奨学金を得てアメリカに留学。オハイオ州立シンシナティ大学音楽院作曲理論科を卒業、その後、ウィーン国立音楽大学指揮科でハンス・スワロフスキーに師事。また、フランコ・フェラーラ、イーゴリ・マルケヴィッチ、ロヴロ・フォン・マタチッチなどにも師事。1976年 ウィーン・トンキュンストラ管弦楽団を指揮してデビュー。1979年 フィテルベルク国際指揮者コンクールに入賞、ワルシャワ国立フィルハーモニーなどに登場して欧州各地で着実に実績を重ねる一方、日本でも1984年から5年間、群馬交響楽団指揮者を務める。1989年から1994年までBBCスコットランド交響楽団首席客演指揮者、1997年から2005年まで英国・アルスター管弦楽団首席客演指揮者を歴任するなどイギリスを中心に活躍。世界各地からの客演も極めて多く、これまでにロンドン・フィル、ロイヤル・リヴァプール・フィル、ロイヤル・スコティッシュ・ナショナル管、ハレ管、ボーンマス



響等のイギリスの他、フランス国立管、アイルランド国立響、オスロ・フィル、デンマーク放送響、アイスランド響、ベルリン響、スペイン放送響、ブルッセル・フィル、ロイヤル・フランダース響、ルクセンブルグ・フィル、ストラスブール・フィル、ラハティ響、ザグレブ・フィル、ポルト国立響、シドニー響、クイーンズランド響、ニュージーランド響、香港フィルなどをはじめ各国の主要オーケストラに度々客演。その間、ロンドン・プロムス音楽祭、ワルシャワ現代音楽祭、クイーンズランド音楽祭、香港音楽祭などにも出演。

合唱団も、パリ管合唱団、エディンバラ・フェスティバル合唱団、リヴァプール・フィルハーモニック合唱団、リーズ・フェスティバル合唱団、ハダスフィールド合唱協会、スペイン放送合唱団等と共演するなど、海外での充実した活動に加え、日本国内でも各主要オーケストラと共演を重ねている。

また、EMIとの2枚のCDに加え、BBC、ABCレーベル等への録音をする他、1996年からは『ナクソス』レーベルと契約を結び、次々とリリースされるCDにおいても高い評価を獲得している。その中でも、注目のシリーズ『日本作曲家選輯』では中心的な存在として日本作品の普及に貢献。2007年井植文化賞文化芸術部門受賞。2008年国際ソロプチミスト「千嘉代子賞」受賞。

2017年3月まで東京藝術大学演奏芸術センター教授を務めたのち名誉教授。